

われら地球人 NPO・NGO 奮闘記 第4回

自分たちの国を自分たちで支えられるように

世界を舞台にさまざまな活動に取り組んでいる日本人がいます。この連載では生活環境や文化、考え方の違いに悩みながら、奮闘する彼らの姿を紹介します。

4 回目はカンボジアを中心に学校建設などを行っている

特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会の清國将義さんにお話しいただきました。



きよくに まさよし
海外事業部長

第4回 特定非営利活動法人

JHP・学校をつくる会

清國将義さん

2001年、カンボジアの首都、プノンペンの駐在員として「JHP・学校をつくる会」に入りました。

当会の中心事業である学校建設は、現地スタッフ2名と日本人駐在員1名がチームになって運営しています。現地調査などを含めると1校の建設にかかる期間は6〜7カ月。チーム

は二つあるのですが、年間約20〜25の学校を建設するので、多くの案件が同時進行になります。また会の基準として、1週間〜10日に1度は建設現場を視察することになっているため、ほぼ毎日、現場に出ることになります。

駐在員としての経理や管理といったデスクワークもあったのですが、一日中事務所にいるということはほとんどなく、4年間の駐在で百数十校の学校建設に携わりました。

大工から転身

「JHP・学校をつくる会」では年2回、大学生などをボランティアとしてカンボジアへ派遣し、現地の学校にブランコを作る活動をしています。国際支援の現場を体験し、考えしてもらうことを目的にしているの

ですが、実際にこの活動への参加をきっかけに国際支援活動に携わるようになる人もいます。私もその一人です。

参加当時はすでに社会人。新卒で入った建築資材の輸入会社から転職して、大工をしていました。たまたま母親からこの活動のことを聞き、学生時代バックパッカーとして東南アジア周辺を巡った経験から、カンボジアに興味を持っていたので、休暇を取って参加しました。

そのとき当会の代表の小山内が、建築資材会社での経験や大工としての経験を見込んでくれたようで、帰国後プノンペンの駐在員に誘われたのです。

即決でお引き受けしたのですが、実は海外支援活動に特に興味があったわけではありません。海外で仕事

をしてみたいというのと、これまでのスキルが海外でどのくらい生かせるか試してみたい、というのが本音でした。

目上の人と話すには

2001年3月にボランティア参加し、その年の8月にはもうプノンペンに入っていました。現地スタッフなどとはすぐに打ち解けられましたが、環境の変化に戸惑うようなこともありませんでした。

しかし、学校建設に取り組むにあたって、何度となく行われる学校の校長先生や地域の大人たちとの話し合いでは、難しいと感じることが多々ありました。

カンボジアには、目上の人間に対して目下の者が公の場で言葉返すことを善しとしない風習があるので

ですが、校長先生ともなればほとんどの場合、自分より年上です。建設する学校の設備や規模について意見や認識が食い違っても、率直に間違いを指摘したり、意見を否定してしまつては、話が進まないのです。お



チュロロミエッタ小学校

互いの意見や要望をすり合わせていくのは、慣れるまでは本当に大変な作業でした。

また建設が終わった後も、半年後、その後は年1回3年間、建設前に約束した掃除やメンテナンスが行われているかなど、使用状況のチェックに行きます。状況が悪かった場合には、それを指摘して、改善をお願いします。そののですが、なかなか対応してくれない場合など、校長先生と口論になってしまいうこともありました。

ただ、そうして一度口論をした先生ほど、後々まで仲良くなっていたりもするのです。

マイノリティの村に 学校を建てる

2005年に帰国したのですが、大学生ボランティア派遣の引率を担

当しているのです、現在でも少なくとも年2回はカンボジアを訪問しています。

そうした機会に、今でもよく立ち寄っている学校があります。コンポンチュナンという、当時は道路状況が悪すぎて、なかなか調査に入ることもできなかった地域の村に建てた学校です。

初めて調査に入ったときに見た村の学校の状態は、思わずその場で「建てる」と約束してしまうほどひどいものでした。カンボジアではマイノリティになるイスラム教徒の村であつたため、要請を出しても、なかなか支援が得られなかったようなのです。

すぐに計画に取り掛かり、2004年に4教室の校舎を完成させました。その後、他の学校と同じように



建設現場をチェック中

使用状況のチェックに行くようになったのですが、抜き打ちで行っているにもかかわらず、毎回、ゴミひとつ落ちていないほどきれい。それどころか、何もなかった校庭が整備され、学年ごとに管理する花壇が作られたりするようにもなりました。

壁の塗り直しなど、メンテナンスもすっかりなされていて、今でも十分きれいなままです。

マイノリティの村ですから、当会が調査に入らなかつたら、今も支援が入っていなかったかもしれません。そういった意味でも、とても印象に残っている学校です。

現地の人の力を主体に

当会のプノンペン事務所には現在日本人駐在員が4名おり、事業はこの4名の駐在員と日本事務所のスタッフが連携して進めています。もちろん現地スタッフもいるのですが、今はまだアシスタントとして動いてもらっている状態です。

国際支援活動の最終的な目標は、現地の人自分たちで自分の国を支えていけるようになることだと思っ

ていますので、当会としても、そろそろ現地の人々が主体になって事業を進めていけるようにする必要がありますと考えています。

また現在、当会の活動はカンボジアを中心としているのですが、2011年早々にもネパールでの活動を開始することになっていきます。準備は最終段階に入っていて、私も9月にネパールに行き、現地の学校の状

態などを調査してきたところです。当然、すぐに事務所を構えて、大々的に事業展開というわけにはいきません。ネパールの状況を見ながら1棟1棟ということになると思います。着実に進めていきたいと思っています。



認定NPO法人

JHP・学校をつくる会
JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER

特定非営利活動法人

JHP・ 学校をつくる会

1990年ヨルダンの難民キャンプにて活動する「JIRAC」として結成。1993年JIRACの中から子どものための学校建設を行う「カンボジアの子どもに学校をつくる会」を設立。1997年「JHP・学校をつくる会」に改称。

主な公的協力機関・加盟団体

特定非営利活動法人 JEN、地雷廃絶日本キャンペーン (JCBL)、カンボジア王国教育省 NPO 事業サポートセンター、JANIC (国際協力 NGO センター) 他

スタッフ構成

国内スタッフ 11名
駐在員 4名
現地スタッフ 8名

連絡先

〒108-0014
東京都港区芝 5-26-16
読売理工学院ビル 6F
Tel. 03-6435-0812